

## 令和3年度事業計画

### 基本方針

令和3年度は、いまだ収束の兆しがない新型コロナウイルス感染症に対し、引き続き（公財）日本博物館協会が制定する「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を遵守のうえ、来館者及び従事者への感染予防を最優先に、次のとおり棟方志功画伯の顕彰等に努めるものである。

昨年9月に開館45周年を記念する特別展を大原美術館及び日本民藝館から作品を借用のうえ、開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、開催を延期したものであるが、改めて令和3年度9月に開催を計画するものである。

また、当記念館を窓口として各方面で実施されてきたアメリカ合衆国メイン州との版画交流は、7年目を迎え、年数を重ねるごとに活発な広がりを見せている。当該年度も版画交流事業を支援することにより、当財団としても棟方を顕彰し、作品を広く普及する観点から、引き続き積極的に協力するものである。

さらに通常の作品普及活動である他館への作品貸出については、一関市博物館から作品借用依頼を受けており、出品要請に沿うよう協力するものである。

次に青森県立美術館との連携による従来からの支援事業等は、当該年度も継続的に実施することにより、本県の芸術文化の向上に貢献するものである。

## I 棟方志功顕彰事業

### 1 記念館運営事業

#### (1) 作品展示

令和3年度の作品展示は例年どおり四期に分けて行い、その主な展示作品は次のとおりである。

##### ①春の展示「AOMORI NO KO」

会期：令和3年3月16日(火)～6月13日(日)

棟方は自伝『板極道』で「目が弱いわたくしは、モデルの身体の線も見えて来ないし、モデルも生涯使わないで行こう。こころの中に美が祭られているのだ。それを描くのだ」という自身の画業の方向性を語りますが、これは故郷・青森の合浦公園や浅虫、八甲田へ足繁く通って写生に没頭し、身体で感じた美しさを自分のものにしたという自負あってこそその決意です。棟方は生涯、青森で得た素材を生かし作

品を生み出しました。春の展示では、故郷の風景や、父や母から受けた恩情など、棟方が愛し、どこにいても想いを馳せた青森にまつわる作品をご紹介します。

【主な展示作品】

板画：善知鳥版画巻、鷺罫の柵、佞武多の柵、津軽三味線の柵、飛神の柵など

倭画：鷹巖図屏風、青森凧絵、フヂヤのオンチャのネプタ図など

油絵：善知鳥小品、雙松・海「麻蒸」けよう浴衣、裸島図など

その他：AOMORI NO KO、玫瑰の歌など

②夏の展示「点と線と面ー板画の美しさー」

会期：令和3年6月15日(火)～9月20日(月)

棟方は「板画は何か普通の絵とは違う、だから絵であらわせぬものをつくらねばならない」「絵を模様化することが一番の板画への早道ではないか」(『板画の道』1956)とし、遠近法を用いて空間の広がりを表現する油絵とは異なる、模様化・装飾化するという独自の板画表現を生み出しました。彫刻刀で彫った部分が白い点や線となり、残りの板の部分が面となる木版画において、白と黒の対比こそ美しいとし、日本伝統の木版画の美しさを追求し続けました。夏の展示では、板画を中心に、倭画、油絵、書それぞれで棟方がめざした美しさに着目しご紹介します。

【主な展示作品】

板画：十和田奥入瀬C、いろは板画柵、流離抄、華狩頌、柳緑花紅頌など

倭画：富士山図・湧霧頌、大瀧図、天乃宇受女之美古登の図など

油絵：大印度シリーズ、伊豆・大島シリーズなど

その他：花深处无行跡、南無など

③秋の展示「開館45周年特別展 棟方志功を育てた人々ー<sup>たたえ</sup>頌<sup>こたえ</sup>と<sup>こたえ</sup>応」

会期：令和3年9月22日(水)～12月12日(日)

棟方志功は油絵画家を目標に上京し、帝展入選を果たしたのち版画を始めました。国画会展に出品した「大和し美し」は濱田庄司、柳宗悦に認められ、その後河井寛次郎に紹介されたことで民藝運動の推進者達と親しく交わり、そこから棟方にとって大きな存在となる人々との交流が広がっていきました。秋の展示では開館45周年企画として、棟方を育てた人々と棟方との関連を紹介するとともに、そこから生まれた作品を主に紹介します。

**【主な展示作品】**

板画：大和し美し、道祖土頌、心偈頌、柳仰頌、鐘溪頌、捨身飼虎の柵など

倭画：御群鯉図、御鷹々々図など

油絵：太陽花シリーズなど

書：不二法門など

④冬の展示「志功三楽」

会期：令和3年12月14日(火)～令和4年3月13日(日)

志功三楽、つまり棟方志功の三つの楽しみとは《故郷を想うこと》、《愛用品に囲まれて描くこと》、《家族とお茶を嗜むこと》でした。また、三楽は棟方が好んでいたテーマでもあり、板画や倭画、油絵などを問わず描いています。冬の展示では、三楽を描いた倭画六点を貼りこんだ「志功三楽屏風」を中心に、棟方の趣味・嗜好や生き生きとした日常が窺える作品を紹介します。

**【主な展示作品】**

板画：胸肩の柵、歡喜自板像・第九としてもの柵、腰越の二人の柵など

倭画：志功三楽屏風、志功三友屏風、御鯉魚図（万里水雲長）、雑華堂井戸碗像図など

油絵：黄昏に寄る子供たちなど

(2) 開館及び休館

令和3年度の開館日数は330日とし、9月13日（棟方志功画伯命日）と11月3日（文化の日）は無料開館日とする。

また、休館日は毎週月曜日（祝日及びねぶた期間中を除く）及び12月29日から1月1日としているが、県内外から多数の来館者が予想される7・8月は無休とし、J R大人の休日倶楽部パス実施期間は可能な限り開館する。

なお、年間の開館・休館日は別紙一覧表のとおりとする。



## 2 作品保存普及事業

### (1) 作品貸出

令和3年度は次のとおり作品貸出を行い広く棟方芸術の普及を図るものである。

#### ①一関市博物館主催「棟方志功展」(仮)への貸出(予定)

会 期：2021年9月中旬～12月初旬

貸出作品：東北風の柵、女人観世音板画卷(彩色)などを主に、調整中

#### ②一般財団法人青森市文化観光振興財団主催「棟方志功賞版画展」への貸出

会期及び会場：2月上旬 青森市民美術展示館

青森市文化観光振興財団が主催する「棟方志功賞版画展」は小・中学生、高校生を対象とした版画作品の公募展であるが、当記念館では主催者からの依頼によって参考出品として棟方志功の版画作品を例年出品しており、令和3年度で34回目となる。

作品貸出料については、棟方志功画伯の偉業をたたえ青森市の版画芸術の振興と青少年の創造性の向上を図るための事業であることから免除している。

#### ③青森県立美術館内「棟方志功展示室」での作品展示

当記念館では、青森県立美術館運営支援事業委託契約に基づき、美術館内の「棟方志功展示室」の展示業務を行っている。作品展示は概ね年間4回展示替えしており、展示テーマによっては美術館の所蔵作品だけではなく、当記念館の所蔵作品も展示するが、それらの展示作品は無償で提供、展示している。

### (2) 作品受贈

全国に散在する棟方作品のコレクターに対し、引き続きホームページ等により当記念館への寄贈について広くPRするとともに、必要に応じて訪問調査、作品鑑定のうへ棟方作品の収集に務めるものである。

### (3) 作品修復

収蔵作品の劣化状況を調査のうへ順次計画的な修復作業を専門家に依頼し、作品の保存に務めるものである。

### (4) 賛助会員募集

当法人の設立目的に賛同し、協力してくれる個人または団体を広く募り、その会費を当法人の運営事業活動に充てるものである。

### (5) アメリカ合衆国メイン州との版画交流

当記念館を窓口として実施されてきたメイン州との版画交流。令和3年度はこれまで同様、青森市民文化祭での展示作品の受け入れ及びメイン州での展示作品の発送に係る連絡業務、費用の一部負担等、当記念館としても継続的な活動に協力するものである。

### 3 開館 45 周年記念事業

- (1) 特別展「棟方志功を育てた人々―頌（たたえ）と応（こたえ）」の開催  
大原美術館（岡山県倉敷市）から本県初公開となる倭画の大作「御群鯉図」を  
また、日本民藝館（東京都目黒区）から板画「心偈頌」、「柳仰板画柵」を借用し、  
棟方を育てた人々と棟方との関連を紹介するとともに、棟方が各氏を讃え、捧げた作  
品やそれぞれの教えに応えた作品を主に紹介する。

## II 青森県立美術館連携事業

青森県立美術館の開館にあたり、平成 18 年度から「事業連携等に関する協定」を締結のう  
え、所蔵作品の相互貸与及び棟方志功に係る展覧会の実施による棟方志功画伯の顕彰を強化  
するとともに、長年の美術館支援及び記念館運営のノウハウを活かした県立美術館の円滑な  
運営に寄与するために行う県立美術館業務を受託してきた。

令和 3 年度も引き続き同館との連携事業を推進することにより、青森県の芸術振興に寄与  
するものである。

### 1 運営支援事業

- (1) 棟方志功画伯に係る研究及び作品展示に係る学芸業務
- (2) 観覧料の徴収
- (3) 受付・案内及び展示に係る監視等の管理指導  
キッズルームの管理に関する業務
- (4) 情報発信
- (5) その他事業連携等に関する協定に基づく運営業務

### 2 受付監視事業

- (1) エントランス総合案内、発券機による観覧券の販売、展示等の案内、電話での団体  
受付及び問い合わせ対応
- (2) 作品及び観覧者の監視
- (3) 図書室内でのレファレンス等対応
- (4) キッズルームでの監視、秩序の維持
- (5) 来館者への便宜の供与及び安全確保

## III 物品販売事業

棟方作品をより身近に感じていただくため、また当記念館での観覧記念として、棟方作品  
の複製品を販売している。この複製品は当記念館が企画、製作しているオリジナル複製品と  
他社が企画、製作し当記念館での販売を委託されている受託品に大別されている。

令和 3 年度は令和 2 年度に新型コロナウイルス感染症の影響により観覧者の大幅な減少を  
受けて制作を見合わせた、ノート及びマスキングテープの製作を計画しており、魅力あるグ  
ッズを開発することにより積極的に増収を図るものである。

なお、当記念館では来館者のみならず、他館展覧会へ作品を貸し出す際は、会場での棟方  
グッズ販売を積極的に働きかけている。

# 収支予算書(正味財産増減計算書ベース)

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	231,000	241,000	△ 10,000	
基本財産受取利息	1,000	1,000	0	基本金利息
基本財産収入貸貸料	230,000	240,000	△ 10,000	作品貸出料
特定資産運用益	1,000	6,000	△ 5,000	
特定資産収入利息	1,000	6,000	△ 5,000	作品購入基金利息
受取会費	1,628,000	1,568,000	60,000	
賛助会員受取会費	1,628,000	1,568,000	60,000	2年度実績見込み同様
事業収益	83,761,000	64,299,000	19,462,000	
記念館運営事業収益	5,014,000	3,030,000	1,984,000	観覧者数過去5ヵ年実績平均の50%を見込む
運営支援事業収益	16,580,000	16,580,000	0	青森県立美術館運営支援等業務受託
受付監視等事業収益	59,348,000	42,000,000	17,348,000	青森県立美術館受付監視等業務受託
物品売払収益	2,656,000	2,548,000	108,000	オリジナル複製品 2年度実績見込み同様
受託品販売受取手数料	163,000	141,000	22,000	他社受託製品 2年度実績見込み同様
受取補助金等	7,000,000	12,074,000	△ 5,074,000	
青森県補助金収益	7,000,000	7,000,000	0	棟方志功記念館運営費補助金
雇用調整助成金	0	3,074,000	△ 3,074,000	
持続化給付金	0	2,000,000	△ 2,000,000	
雑収入	3,000,000	0	3,000,000	
雑収入	3,000,000	0	3,000,000	消費税額等還付金
<b>経常収益計</b>	<b>95,621,000</b>	<b>78,188,000</b>	<b>17,433,000</b>	
(2) 経常費用				
事業費	111,872,000	107,099,000	4,773,000	
役員報酬	2,535,000	2,535,000	0	理事長報酬
給料手当	12,087,000	12,184,000	△ 97,000	職員2名
臨時雇賃金	61,567,000	53,846,000	7,721,000	嘱託職員5名、記念館及び県立美術館パート職員
退職給付費用	781,000	781,000	0	職員2名
福利厚生費	6,138,000	5,601,000	537,000	社会保険料等
旅費交通費	260,000	100,000	160,000	作品借用等
通信運搬費	3,190,000	1,518,000	1,672,000	作品運送展示替え等
減価償却費	3,802,000	3,802,000	0	記念館建物等
消耗什器備品費	0	330,000	△ 330,000	
消耗品費	1,481,000	1,974,000	△ 493,000	事務用品等
修繕費	300,000	460,000	△ 160,000	記念館施設修繕等
印刷製本費	995,000	800,000	195,000	PRポスター等
燃料費	2,065,000	2,227,000	△ 162,000	冷暖房燃料等
光熱水費	3,233,000	2,971,000	262,000	電気料等
賃借料	1,773,000	1,727,000	46,000	事務機器リース等
保険料	792,000	572,000	220,000	作品運送展示一貫保険等
諸謝金	40,000	40,000	0	生け花奉仕団体謝礼金
報償費	60,000	60,000	0	来賓及び作品寄贈者への贈呈品
物品仕入	2,582,000	1,016,000	1,566,000	販売用複製品に係る製作及び仕入代金
租税公課	1,648,000	7,478,000	△ 5,830,000	消費税額等
広告料	45,000	45,000	0	求人広告
委託費	6,157,000	6,757,000	△ 600,000	清掃及び警備等
雑費	341,000	275,000	66,000	口座振込手数料等
管理費	1,834,000	2,875,000	△ 1,041,000	
役員報酬	180,000	765,000	△ 585,000	評議員、理事及び監事
給料手当	148,000	149,000	△ 1,000	理事長、職員2名管理業務按分額
福利厚生費	18,000	18,000	0	職員2名管理業務按分額
会議費	124,000	123,000	1,000	評議員会及び理事会
旅費交通費	221,000	97,000	124,000	評議員会及び理事会旅費等
通信運搬費	214,000	211,000	3,000	賛助会関係等
交際費	100,000	250,000	△ 150,000	慶弔費等
消耗品費	185,000	185,000	0	事務用品等
印刷製本費	181,000	397,000	△ 216,000	賛助会関係等
報償費	160,000	182,000	△ 22,000	お歳暮等
租税公課	34,000	179,000	△ 145,000	消費税額等
支払負担金	61,000	61,000	0	全国美術館会議等年会費
委託費	138,000	188,000	△ 50,000	賛助会関係等
雑費	70,000	70,000	0	口座振込手数料等
<b>経常費用計</b>	<b>113,706,000</b>	<b>109,974,000</b>	<b>3,732,000</b>	
<b>当期経常増減額</b>	<b>△ 18,085,000</b>	<b>△ 31,786,000</b>	<b>13,701,000</b>	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
<b>当期経常外増減額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>当期一般正味財産増減額</b>	<b>△ 18,085,000</b>	<b>△ 31,786,000</b>	<b>13,701,000</b>	
一般正味財産期首残高	1,561,630,162	1,593,416,162	△ 31,786,000	
一般正味財産期末残高	1,543,545,162	1,561,630,162	△ 18,085,000	
<b>II 指定正味財産増減の部</b>				
<b>当期指定正味財産増減額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>指定正味財産期首残高</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>指定正味財産期末残高</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>1,543,545,162</b>	<b>1,561,630,162</b>	<b>△ 18,085,000</b>	